

(11)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は高水準で推移しているものの、一服感がみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

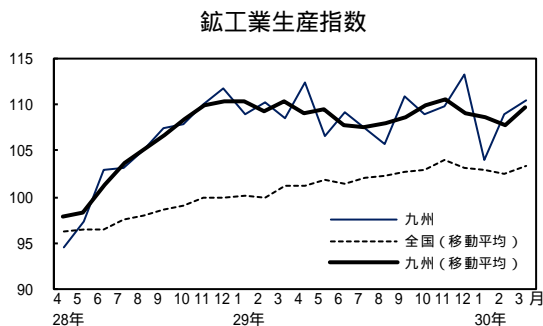
前回からの主要変更点

	前回(平成30年2月)	今回(平成30年5月)	
鉱工業生産	高水準で推移	高水準で推移しているものの、一服感	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は高水準で推移しているものの、一服感がみられる。

1 - 3月期には、輸送機械は、普通乗用車等を中心に減少した。電子部品・デバイス、半導体集積回路(CCD、その他)等を中心に減少した。はん用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置等が好調なことから増加した。食料品は、減少した。化学・石油石炭製品は、プラスチック等が減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値ウェイト	生産				
		10 - 12月期	1 - 3月期	1月	2月	3月
輸送機械	24.5	0.8	3.0	16.2	16.0	6.6
電子部品・デバイス	12.3	8.3	11.4	16.5	3.8	5.3
はん用・生産用・業務用機械	11.2	6.6	1.3	5.3	2.1	5.5
食料品	9.6	0.4	1.5	3.4	1.1	0.2
化学・石油石炭製品	8.3	0.2	6.3	6.5	1.6	14.4
鉱工業	100.0	2.4	2.5	8.1	4.7	1.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1 - 3月期、3月は速報値。

(備考) 1. 22年 = 100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の太線は中心3か月移動平均。

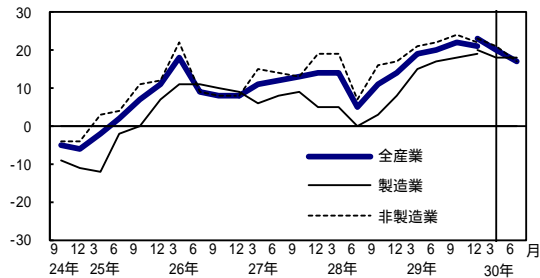
直近月は2か月平均。

(11) 九州

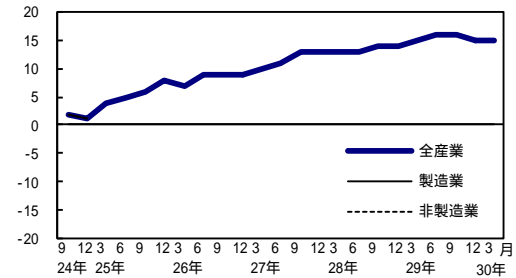
(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



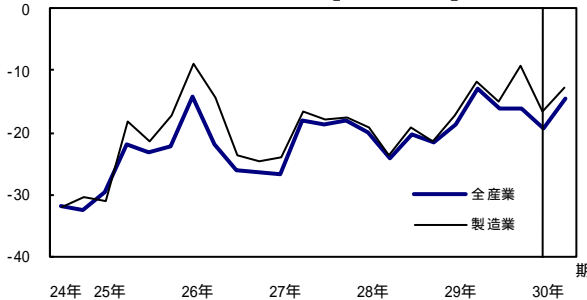
(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年6月は予測。
26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。
25年3月から製造業・非製造業は非公表となっている。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



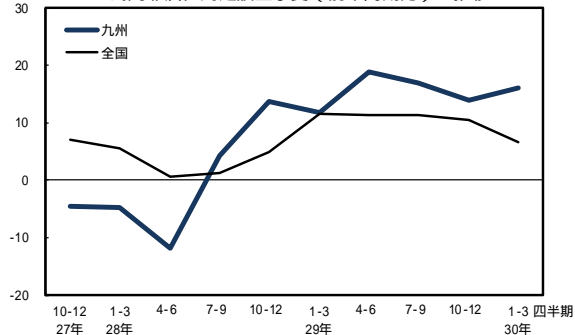
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「例年この時期は受注量が活発になるが、今回は伸びが悪い(金属製品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて大幅に増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	29年度実績見込み	30年度計画
全産業	22.5 (1.3)	4.5
製造業	26.0 (3.1)	16.0
非製造業	18.6 (0.9)	9.5

(備考) 1.()は前回(12月)調査比修正率。

2. リース会計対応ベース。

3. 沖縄を含む。

(備考) 29年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比0.5%増、2月は同0.1%増、3月は同0.4%減となった。

百貨店・スーパー販売額

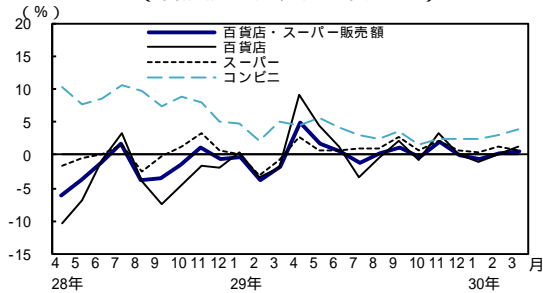
百貨店は、1月は、化粧品、宝飾・貴金属等に動きがみられたものの、休日の日数が前年より1日少なかったことに加え、気温の低下や天候不順等から入店数が減少したことにより、衣料品等の動きが鈍く、前年を下回った。2月は、気温が低く推移したこと等により衣料品等の動きが鈍かったものの、高額品等に動きがみられ、前年を上回った。3月は、衣料品、飲食料品の動きが全般的に鈍かったものの、高額品や化粧品等に動きがみられ、前年を上回った。

スーパーは、1-3月期は、飲食料品等に動きがみられ、前年を上回った。

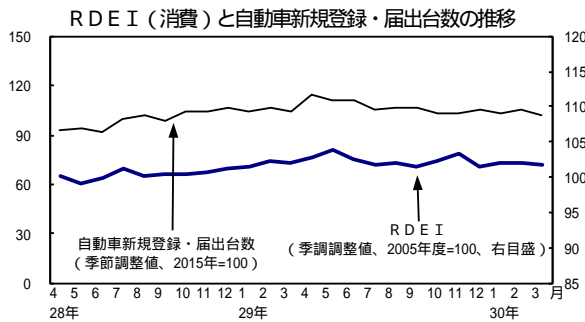
景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「4月以降ゴールデンウィークも含めて前年割れとなっている。海外ではハワイ、国内では大型レジャー施設が順調であるが、東南アジア、東京方面の旅行は苦戦している (旅行代理店)」など「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	30年1-3月	30年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.5	0.5	0.1	0.4
百貨店・スーパー(*2)	0.0	0.7	0.3	0.4
百貨店(*3)	0.0	1.1	0.0	1.2
スーパー(*3)	0.8	0.4	1.2	0.7
コンビニ(*3)	3.2	2.5	3.0	4.0
乗用車(*4)	1.8	0.5	1.4	3.5
(季節調整値)(*4)	0.1	1.5	1.7	2.7



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

・百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。

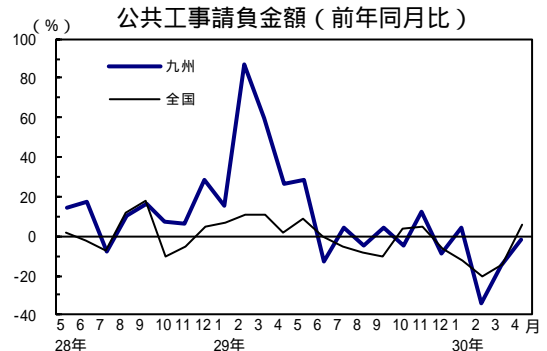
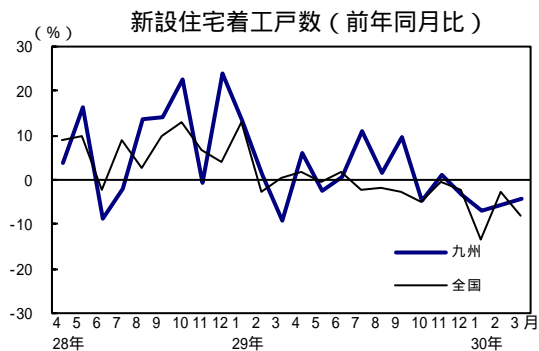
・コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。

分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は29年度累計でみると前年度とほぼ同水準となっている。

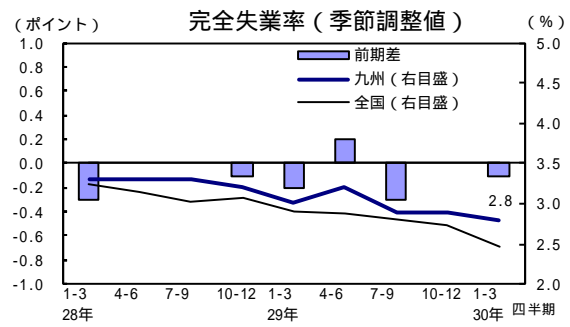
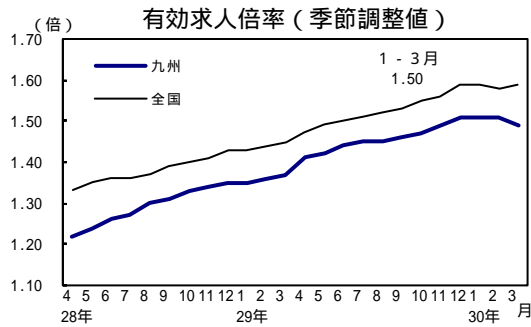


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [雇用関連 (現状)]

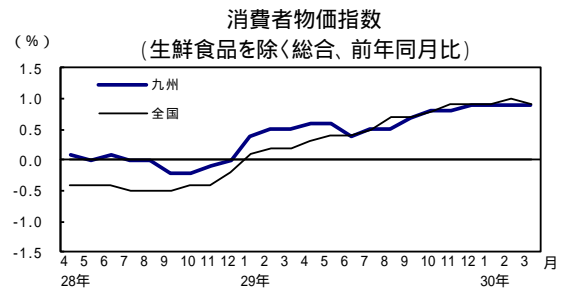
「現在、半導体製造業等を派遣先とする派遣・請負求人が多く提出されるなど求人数は高水準が続いている。求職者の動向は、会社都合・自己都合の離職理由を問わず離職者自体が少ない。また、在職中のまま転職先を探す求職者も少ない (職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	29年4-6月	7-9月	10-12月	30年1-3月	30年4月
倒産件数	128	119	137	133	57
(前年比)	12.3	21.2	3.0	3.9	54.1
負債総額	264	114	205	188	33
(前年比)	2.6	70.5	51.8	42.4	69.1



景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

